

令和七年 新春号

# 円満寺だより

## 謹賀新年

巳

お陰様で本年の三が日は穏やかに過ごすことができました。しかしながら、

昨年は能登半島大地震や羽田空港での大事故と、大変な一年の始まりでした。さらには、能登ではこれから復興へと向かう矢先に豪雨による甚大な被害も重なり、自然災害の非情さを痛感しました。七月には新庄においてもこれまでに類を見ないほどの豪雨となり、若い警察官が殉職しました。また戸沢村蔵岡では、集落全体が冠水し、集団移転を選択することになりました。挙げればきりがありません。大変な状況におかれた方々は多いことでしょう。災難は実際に体験した方でない、その苦労は計り知れないものです。災害に遭われた皆様の一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて今年は、巳年です。巳年を司るへびは、何度も脱皮を繰り返しながら成長していくた

め、生命力や情熱、再生などの象徴として昔から尊ばれてきました。へびの中でも白い蛇やニシキへびなどは幸運・金運をもたらすものとして有名です。復興が待たれる地域や産業にとっては、とても縁起の良い年と言ってよいのではないのでしょうか。

一方でへびに対しては一般的に恐ろしいイメージがあります。へびの眼や舌、牙と毒。へびは狡猾な捕食者として、時には人をも脅かす生物です。

そしてだからこそ同時に人はへびに魅了されます。古えより畏怖すべき対象は、同じく敬うべき対象ともなってきました。毒をもって毒を制すと言われますが、古代エジプトやインドなどにおいても、へびは邪悪なものでありながら、邪悪を払う守り神とされてきました。またギリシャ神話においても、英雄ヘラクレスとへびの髪をもつメデューサとの闘いが有名です。ヘラクレスはメデューサに打ち勝ち、その頭を使つて、より強大な魔物を倒す物語があります。へびという魔をもつて、より大きな魔を払う。まさに幸運をもたらす秘訣が、へびとまつわる歴史に語られています。実は歓喜天(聖天)さまが誕生したエピソードも、これに類するもののようです。歓喜天はヒンドウ教のガネーシャが元となっている尊格で、そのガネーシャはシヴァ神とその妃パールヴァティの子とされています。シヴァは気性の荒い神で、ある日その子の頭を切り落としてしまいました。母のパールヴァティは近くにいた象の頭を切り落とし、頭を失くした自分の子にその象の頭をつけて、象頭人身の神さまガネーシャが生まれました。しかし、ガネーシャはパワーが有り余り、皆に迷惑をかける乱暴者でした。そこで観音さまはガネーシャの側にいて、そのパワーを良い方向へ用いるようにさすことになりました。そのため、歓喜天をまつる所には必ず観音さまもいます。

元々、シヴァも破壊と創造を司る神さまで、首にはへびが巻き付いています。やはり、洋の東西を問わず、へびは再生や転回の象徴なのです。

円満寺の祈祷札は通常とは逆さまに水引がかけられています。これは転禍為福、「禍い転じて福と為す」という願いが込められています。この転禍為福こそ、人の智慧の最たるものであり、自然・宇宙のはたらきそのものなのです。



## 新庄開府四〇〇年

今年は、新庄開府四〇〇年です。円満寺は一年早く昨年開山四〇〇年を迎えました。それは、城下を整備するにあたり、まずお城の東北の位置に鬼門除けとして円満寺を配置し、新庄藩の祈願所としたからです。その一年後に城下を開いたことで、今年が新庄開府四〇〇年となります。

新庄円満寺の初代住職は、初代藩主政盛公の叔父甚盛上人です。戸澤家は秋田角館、茨城高萩、そして新庄へと国替えされますが、それにもない戸澤家の氏神である天満宮のご神体を共に担いできました。そして新庄に移ってからもその天満宮を守り、祭祀を担ってきたのは円満寺の住職でした。

戸澤藩の入りによって新たに城が築かれ「新城」と名乗り、新田開発などで「新莊」となり、そして現在の「新庄」となったという歴史があります。お堀のあるお城は大変貴重で、県内では、米沢、山形、鶴岡そして新庄の四か所だけです。

私たちは、先人が開いたこの街に感謝し、新庄の四〇〇歳の誕生日を皆でお祝いしましょう。

## 節分星まつり祈禱

二月二日（日） ※日付に注意

午後三時 歓喜天堂

護摩祈禱・法話・豆まき・福引

### ◎ 祈願料

- ・星まつりお守 三五〇円
- ・星まつりお札 三〇〇〇円
- 五〇〇〇円
- 一〇〇〇〇円 など

※申し込み書にご記入の上、ファックス・郵送、またはお寺にご持参ください。

※市外、県外からの方は、お守とお札の配送も承ります。

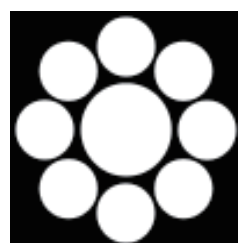


## 星まつりとは

古来、人は星の位置によって事の吉凶を占ってきました。現代に伝わる真言宗においては、運勢を司る星を祭り、供養すること、祈願者の息災を祈ります。星を供養することから、星供とも呼ばれます。円満寺を建立した新庄藩主戸澤家の家紋は九曜の紋（右下）であり、九曜の紋は一年ごとの運勢を司る当年星という九つの星を太陽の周りに配した紋様です。そのため円満寺にとっても星祭りは重要な行事の一つです。

節分は旧暦の年越しにあたるため、その節分に、新年の吉祥息災を祈って星祭りを行うことが多いです。お寺によっては、年末や一月に行うこともあります。

節分において豆まきを行うのは、宮中の行事であった鬼を払う追儺式の名残であるという説があります。星供も豆まきも、災難や邪気を払うことをその目的としています。年が変わる重要な節目には、無事息災を祈ることは、今も昔も変わりません。



## 歓喜天の初縁日

二月十六日（日）

歓喜天堂

・護摩祈祷

正午十二時

午後三時

・おさいど

午後六時



初縁日の護摩祈祷は、例年二月の第三日曜日に執り行います。夜はお柴燈を行いますので、古いお札やお守りなどをお持ちください。

縁日は本尊の吉祥日として、この日にご祈祷や祭事を行うことが、何よりも吉祥であるとされる日です。また、多くの方々と一緒にお祈りを捧げることで、諸縁が益々円満となるといわれます。お札などを頼まれない方でも、ご祈祷には参列できますので、ご家族での参詣をお待ちしております。また夜にはおさいどを行い、縁起物のお焚き上げをいたします。お焚き上げを希望する方は、事前にご持参ください。

## 歓喜天と利益について

歓喜天は聖天とも呼ばれ、象の頭と人の体をしたインド由来の神さまが仏教に取り入れられたものとされています。歓喜天は他の神さまよりもとくに諸願成就に優れるとされ、全国的に熱心な信仰の対象となってきました。

一方で、昔の逸話では、歓喜天さんは七代の福を一代に集めてしまったため、あまり求めすぎると後代の子孫が苦勞するというように言われたりもします。我利我欲にとらわれた願いばかりではいけないよという言い伝えです。

この世の財は有限です。私有したものが大きくなると、それを維持するのも大変となります。すでに与えられてきたもの、恩恵を受けてきたものに目を向ければ、すでに利益に溢れていたと気づけるようになります。中々難しいですが…。

心の持ちよう、心の向け方次第といえつつまらないような気がします。抱える問題を解決し、願いを叶える根本は最終的には心を知ることなのだと、仏教では説かれます。

## のぼり旗

### 奉納のご案内

お願い事を込めたのぼり旗を奉納し、一層のご加護をお祈りしませんか。



### のぼり旗の種類と最たる利益

大聖歓喜天 — 開運厄除・商売繁盛  
大聖不動明王 — 息災・厄除け・先祖供養  
十一面観音菩薩 — 子宝・安産・良縁  
南無大師遍照金剛 — 息災・厄除け・安全  
南無虚空蔵菩薩 — 学業・智恵  
子育て地藏尊 — 子育て  
稻荷大明神 — 豊作・商売

ご奉納いただいたのぼり旗に、「願い事」「名前」を書いて、護摩祈祷の後、境内に掲げます。

△期間▽ 奉納日よりおよそ一年間

△奉納料▽ 一本 二五〇〇円

お申し込みは年中受け付けております。

## 願い護摩木 奉納のご案内

円満寺では毎月一日と十七日に護摩祈禱を行っています。護摩祈禱とは、智慧の象徴である炎をあげ、そこに良い香りの供物を投じ、本尊さまを供養する修行法です。その炎にくべる護摩木に願い事と氏名を書いてご奉納くださいますと、護摩祈禱の際に一緒にくべて、お焚き上げします。

奉納料 一本 一〇〇円



ひふせごへい

## 円満寺の火伏御幣

節分と初縁日の護摩祈禱において、火の用心、火難除けの願いをこめた火伏御幣を加持いたします。台所や玄関などの高く清浄な場所にお飾りください。

志納料 一体 三〇〇円



## 円満寺の恒例年間行事

一月一日

新年護摩祈禱

一月小寒

節分

寒修行

二月三日

節分星祭り

二月第三日曜

初縁日・おさいど

四月八日

花まつり

五月第三日曜

青葉祭り

七月第四日曜

夏祭り・花火大会

十一月二十三日

大黒天祭り

## 円満寺の毎月の行事

### ・護摩祈禱

毎月一日 朝七時

十七日 朝七時・午前十時

### ・写経会（付 般若心経を学ぶ会）

毎月十七日 午前十時半・午後一時

### ・心経会

毎月二十一日 夜七時

護摩祈禱はお札の申し込みなしで、どなたでもご参加できます。一緒にお経を唱え、清浄で静寂な時間を共に過ごしましょう。

### 編集後記

風邪、インフルエンザが大流行中ですね。お寺内でも皆で替わるがわる体調をくずしています。みなさまもどうぞお気を付けください。

新庄聖天 円満寺

〒996-0001 新庄市五日町五九一四

電話 0233 (22) 0433 Fax (32) 0166

令和七年一月十五日発行 発行人 山尾瑛紀